

【東京都】

「令和6年東京都職員Ⅰ類A採用試験」より

問 題

〔No. 30〕 江戸時代末期から明治時代において日本が締結した条約に関する記述として、妥当なのはどれか。

1. 日米和親条約では、下田と浦賀の2港を開き、アメリカの船に薪水や食糧を供給すること等が定められ、大老の井伊直弼^{なおすけ}が勅許を得て同条約を締結した。
2. 日米修好通商条約では、日本は関税自主権は認められたが通商においては自由貿易が制限され、アメリカに領事裁判権があるなど、その内容は不平等なものであった。
3. 下関条約は、日清戦争^{にっしん}の講和のために締結された条約であり、その内容は、清国は日本に遼東半島^{りょうとう}及び台湾・澎湖諸島^{ほうこ}を譲渡し、2億両^{チー}の賠償金を支払うこと等であった。
4. 樺太・千島交換条約^{からふと}は、日本とロシアとの国境を明確にすることを目的とした条約であり、この条約では、樺太・千島について、樺太の北緯50度以南及び択捉島^{えとろふ}以南を日本が領有すること等が規定された。
5. 日清修好条規は、日本が結んだ初めての日本を優位とする不平等条約であり、江華島事件を機に清にせまり、関税免除等を認めさせた。

解 答

〔No. 30〕 3